

1枚の紙から何ページできる？

本はどのように作られるのでしょうか？ここでは並製本（中身を綴じ、表紙と接着し、同時に仕上げ断ちしたもの）についてご紹介します。本を1頁ずつ印刷するのは手間・コストがかかるので、一度に大きな紙に複数の頁を印刷し、これを折り機にかけて1頁大の大きさになるまで折り、これを製本し、仕上げ断ちをして本を作ります。

○印刷

1枚の大きな紙に、4頁、8頁、16頁など複数の頁（面）を印刷します。面をどのように取るかは、紙の折り方、製本の方法によって異なります。例は、縦組みで1枚の紙から16頁を印刷するものです。

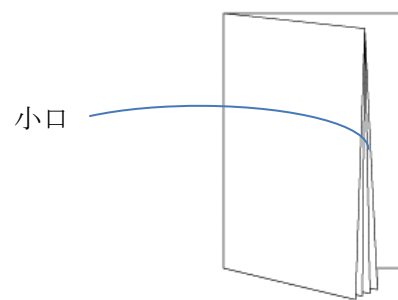
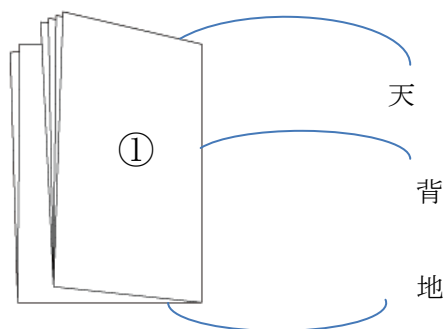
○紙の折り方

一番若い数字（今回は①）を外側（机の面に接して）、左下に置いて始めます。紙の真ん中で右から左に2つ折りにします。折った紙を時計回りに90度回転し、さらに右から左に2つ折ります。さらに時計回りに90度回転をして右から左に2つ折りにします。背と天以外（小口と地）を2mmほどはさみで切り落とします。

表裏あわせて16頁ができました。この折った状態のものを『折り』と呼びます。折りを重ねることで、本は1~16頁、17~32頁…と頁数が増やせます。本の総ページ数が16の倍数であることが多いのはこのためです。

【できあがり】

→ひっくり返すと横組みの本に。



縦組み（本の文字が縦に並んでいるもの）の折りの例。右側が袋、地（下の部分）が袋折になります。右開きの本になります。

横組み（本の文字が横に並んでいるもの）の折りの例。左側が袋、天（上の部分）が袋折になります。左開きの本になります。

○製本（並製本）

折りを重ねて（総頁数80pの場合5折り分）、背の部分を接着剤等で綴じ、表紙でくるみます。その後天・地（本の上・下の部分）、小口（背の反対側）を裁断し、本が完成します。